

国語総合	報告課題第一回	年	組	氏名
解説				

【挨拶上手】

まず、全文を読んでみましょう。

この単元は、全部で四段落となっており、皆さんにもなじみのあるサザエさんに登場するワカメちゃん等重要人物となっています。また、「挨拶」というものがなぜあれほど大事だと言われているか考えながら、取り組んでいきましょう。

- ① 初め～八ページ八行
- ② 八ページ九行～一〇ページ四行
- ③ 一〇ページ五行～一一ページ六行
- ④ 一一ページ七行～終わり

となっています。

第一段落での内容要約―毎朝のバス停

僕は毎朝、同じ時刻にバス停で五人の人に会う。しかし、六人はバスを待っている数分のあいだ、言葉を交わさないし、挨拶もしない。これがアメリカであれば、少しはコミュニケーションをとるのではないか。日本でも地方であれば違うはずで、少なくとも会釈くらいはするだろう。

第二段落の要約―一人の女性の挨拶とそのあとの変化

ある朝、初めて見る顔の女性がバス停に駆けてきて列に並び、「田中と申します」と自己紹介して挨拶をした。これに応えて僕が挨拶をすると、バス停に並んでいた全員が次々に自己紹介をし、その場は和やかな雰囲気になりました。翌朝、僕がバス停に行くと、田中さんを含む三人が並んでいて、楽しそうに言葉を交わしていた。僕が挨拶をすると、みんなが挨拶を返してくれた。

第三段落の要約―田中さんのマナーと心遣い

田中さんにみんなと知り合いになれたお礼を言うと、田中さんは、田舎育ちで人と顔を合わせで黙っているのがつらいだけなのだが、そんなふうに言ってもらえてうれしさと答えた。バスに乗り込むまでは会話をしてもバスの中では会話をしない、という姿勢を率先してとったのも田中さんだった。ある日、僕が駅で外国人のボーイフレンドと歩く田中さんを見かけたときも、スマートに、人の間に立ってボーイフレンドを紹介してくれて、頭の下がる思いがした。

第四段落の要約―挨拶は自分を守る鎧

人と人のつながりの目的は、自分たちの安全のためである。挨拶を交わし、互いを知ること、安心を得る。安心したければ、挨拶すればよい。また、挨拶は他人への思いやりでもある。その思いやりは感謝から生まれ、感謝は尊敬から生まれる。何より大切なのは、いつどんなときでも他人を尊敬する気持ちを失わないことである。僕は田中さんのおかげでそれを思い出し、朝、バス停の六人に挨拶ができることを、心からうれしいと思えるようになった。

【身近な動植物の名を覚えよう】

この單元も、全部で四段落となっています。みなさんも疑問に思ったことがあるかもしれませんが、「名前」ってなんだろう？。ある意味、哲学的な題材を用いた單元となっていますが、構成自体は簡単です。見ていきましょう。

- ① 初め〜一四ページ五行
- ② 一四ページ六行〜一七ページ八行
- ③ 一七ページ九行〜一八ページ一一行
- ④ 一八ページ一二行〜終わり
となっています。

第一段落の内容要約―

私たちは外界を五感で認知するが、認知した物との間に強い関係性を築くには、名前を覚えることが重要である。そうすることで、それらとの間に一体感や親近感を得ることができる。それは人間関係についても同じことが言える。私たちはお互いの名前を知ること、親しさを増し、より深い人間関係を築いていくのである。

第二段落の要約

私たちは周りの身近な自然についてあまりにも無関心である。最近自然に親しもうという声があがっているが、まずそのための第一歩として、身近な動植物の名前を覚えたい。そうすることで、日常生活の中に自然が組み込まれていくことになる。こうして個人の体験の中に自然が入り込むようになれば、自然の美しさや不思議さを感じることができるようになるのである。

第三段落の要約

日本のサル学が優れた業績をあげてきたのは、個体識別という独自の方法によるところが大きい。それは、個体ごとにサルの特徴や、名前を覚えることによつて、サルとの間に共感の場を作り出していくことにほかならない。言い換えれば、自らの日常あるいは世界の中にそうやってお互いを組み込むことによつて、強固な関係を築くことができたということである。こうした背景によつて、独自の思考や研究が進んでいったといえる。

第四段落の要約

今まで見てきたように、自然の名前を覚えるということは、自らの感性の中に自然を組み込むということである。そうすることで、私たちの日常に自然を、そしてそこに流れるいのちを見いだすことができる。人生の豊かさやうるおいというのは、こうしたほんの些細な日常の中の非日常を感じるところにあるといえる。

それを踏まえただえで、報告課題に取り組んでいきましょう。